

- 1月10日午前11時5分頃、淡水化装置No. 1 の周辺に水たまりがあることを、現場パトロールを行っていた協力企業作業員が発見しました。
- 当社当直員が、現場を確認したところ、急速ろ過装置（A）入口流量計、急速ろ過装置（B）入口流量計、ROモジュール出口配管フランジ部、ROドレン出口逆止弁フランジ部から水が漏れいしていることを確認しました。
- 漏れい範囲は約30m×約3m、最大深さ約3cmであり、漏れい量は約2m³と推定しています。
- 漏れいした水は、堰内に留まっており、回収作業の準備が整い次第、回収を行う予定です。
- 漏れいした水は、セシウム吸着装置（KURION・SARRY）でセシウムを除去した後の水であり、放射能濃度は以下の通りです（1月10日採取）。
 - ・セシウム134：検出限界未満（ $<4.5 \times 10^2$ Bq/L）
 - ・セシウム137： 3.6×10^3 Bq/L
 - ・全ベータ： 2.9×10^7 Bq/L
- なお、敷地境界モニタリングポストや連続ダストモニタに有意な変動がないことを確認しています。
- また、淡水化装置No. 1 は廃止の実施計画が認可済であるため、他系統と切り離れた設備で休止しており、汚染水処理と原子炉注水用の淡水確保について影響はありません。
- 淡水化装置No. 1 から水が漏れた原因は、配管の内部の水が凍結したことに伴い配管や継手部が損傷に至ったと考えておりますが、今後速やかに原因の調査を進めるとともに、以下の対策講じてまいります。
 - ・淡水化装置No. 1 が収められている蛇腹ハウス内の熱風ヒータを1月10日に起動し、更なる凍結の発生を防止する。
 - ・流量計前後の弁を「閉」とすることで、漏れい箇所の袋養生を実施することで、漏れいを停止する。
（1月11日午前中のパトロールにおいて、漏れい停止を確認）

漏えい箇所写真

①急速ろ過装置（A）入口流量計



②急速ろ過装置（B）入口流量計



③ROモジュール出口配管フランジ部



④ROドレン出口逆止弁フランジ部

